

ふるさと一本松が好き！



講演をされた岡本吉起さん



小雨降る中、約5ヘクタールに咲くコスモスを主会場に「第3回ふるさと一本松祭」が行われ、ゲームソフトの開発や販売を行うゲームリブリック社長の岡本吉起さん（中川地区出身）の講演、ビンゴゲーム、もちまき、物産販売などがあり、多くの方が広見地区の田園を訪れました。また、広見コミュニティセンターでは、南宇和高校吹奏楽部のエネルギーギッシユな演奏があり、部員たちのいきいきとした表情や様々な楽器の音色を多くの方が楽しんでいました。

講演をされた岡本さんは、自身の小中学校や専門学校時代を面白おかしく話され、多くの聴衆から温かい拍手が送られています。その中で「専門学校では、上手くデザインを描くには、睡眠時間を少なくしても、デザインを書く時間を増やすこと。継続することで、上手く描けるようになる」と信じていた。やはり、継続すること、挑戦すること、続けられれば、きっと道は開けると思う。今の私は、そうして今の地位を得たと思っている。また、本当の親孝行は、お金や物では得られない、心と心のキャッチボールができる親子関係を築くこと。飾らない言葉で、互いを思いやる会話を重ねることだと思つ」と話されました。

最後に、開会あいさつの中で、宮岡秀幸（みやおかひさゆき）実行委員長は「このイベントを通じ、ふるさとの風景の美しき、人の絆を深めてほしい」と話されましたが、一本松の秋を象徴するようなイベントに発展してほしいと願っています。